

こんにちは。
町長です。

「ほめて」育てることの大切さ



周辺の山々も紅葉となり、秋の深まりを感じる季節となってまいりました。

さて、人を育てることや、より良い人間関係を築くことは我々社会で生きていくうえでとても大切なことだと思います。このことを実現するうえで大変参考となる講演会が当町で

何回か開催されました。この講演会の講師は、一般社団法人日本ほめる達人協会理事長の西村貴好氏と、同協会特別認定講師である学校法人橘学園秩父ふたばこども園(秩父市)副理事長の根岸和美氏のお二人です。

西村理事長は、覆面調査会社を立ち上げ、飲食店やサービス業の経営者からの依頼を受け、問題点や改善点を探し出す仕事を行い、徹底的にダメ出しをしたとのこと。しかし、正しいことを証拠とともに伝えても結果は変わらず、瞬間的に改善されても次々と違う問題点が持ち上がる状態であったそうです。そこで、視点を変えてまったく逆の挑戦として、無理やりでも社員の「いいところ」を探して報告することにしたら、その「ほめられた」社員の業績が上がったそうです。

このような経験から、今できているところにスポットを当て、ほめて、認めることで人は驚くほど成長すること、また、目の前の人の成長を妨げてきたのは、マイナスのラベルを張っていた自分自身であることを学び、「ほめる達人」になる道を選んだとのこと。

一方、根岸さんは家庭の事情等により幼稚園の経営に参加することになり、その中で色々な経営上の悩みを抱えていたときに、同協会に出会い、学んだことで自分自身をほめる達人に変革させたとのこと。これを機に職員の意識も変わり、園を離職する職員もなく、現在は幼稚園からこども園に経営を衣替えして順調に進んでいると伺っています。

同協会が定義する「ほめる」とは、人などの「価値を発見して伝える」こと、ダイヤモンドでも周りの見えない暗闇では石ころと同じですが、明かりがついてその石ころがダイヤだと気づいた途端、そこに価値が生まれる。職場や家庭で、この明かりの役割を果たすのが「ほめる」ことだそうです。

価値を発見して伝えるのに必要なのは「観察力」と「変換力」そして「伝える力」であり、

- 「マイナスをプラスに変換」することも価値の発見に役立つこと。
- 「ほめる」とは理論や理屈ではなく実践こそすべてであること。
- 「ほめ上手」になれる魔法のフレーズの3S『すごい』『さすが!』『素晴らしい!』の3つを口癖にして反射的に使えるようにすること。

「言葉一つ」ですべてがうまく回り出す。

これらのお話は、町役場職員の人材育成などにも生かせる内容であり、大変参考になりました。

小鹿野町長 森 真太郎